

KIDS SMILE LABO JOURNAL

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Vol.26
July
2023
TAKE FREE



KIDS SMILE LABO の 1 枚。

副園長の森誉さんが選んだ、とっておきの 1 枚を紹介します！

“表現できる場があること”

こうしてみたいと感じたままに手を動かし
容器の中には一人ひとり違う色
色彩を使って自分の世界を表現していく
思いきりを楽しみ、自分の考えや感情を自由に表現できる環境は居心地が良い
評価や批判のない、子どもたちが自信を持って自分を表現できる場は子どもたちの心を育てる
創造の喜びを知る子どもたち
彩り豊かな彼らの世界で
希望と夢が溢れるように
子どもたちは想像力を表現に変えて自由に踊る

感じて試して、また感じて
そうした繰り返しの中で獲得していくもの
それは決して、目に見える変化や形あるものではないかもしれないけれど
その子の大切な要素となっていく
自分らしさを表現できる場があるということは
かけがえのない育ちへと繋がっていきます

photo & text by morimori

JOURNAL TOPIC

01 子どもとアートの関わり方

KIDS SMILE LABO のアート活動で大切にしていることは...？

02 『表現の先に見えてくる世界』を振り返って

子どもとアート

浅羽先生を招き、開催されたアートセミナーの様子をご覧ください！

03 KIDS SMILE LABO CLASS & KITCHEN NEWS

KSL の子どもたちのあんな様子やこんな様子です。年齢ごとの違いにも注目！

kidssmilelabo.com



@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO

子どもとアートの 関わり方

BY CHINA SHINOHARA

保育士になりたての頃、様々な角度から子どもたちを捉え、関わるようになりたいという思いがあり、アートワークセラピーを学んだ事がありました。学びを通して、日々の保育をみてみると、アートは子どもの成長に対して大きな力を持っているのを感じます。想像力、創造力、思考力、忍耐力、挑戦力、集中力、指先の運動、達成感などなど...表現する際に、頭も体も心もフル回転させています。

私は子どもが自由にアートをしている姿が大好きです。子どもの姿をみてみると「そんな表現があるなんて!」と日々驚きや発見にたくさん出会え、アートを通すことで見えるその子の姿に触れることができ感動します。KIDS SMILE LABO では、子どもたちの表現を大切にしています。そして、物的環境だけでなく、大人の在り方も環境と捉え、共通で意識していることがあります。今回は、アートの重要性や、LABO の職員が子どもたちのアートにどのように関わっているのかご紹介していきます。

保育園 KIDS SMILE LABO 主任 篠原 千奈

アートの行為が もたらすもの

①脳の活性化

素材を扱うことで手を動かしたり、五感が刺激されたりして脳が活性化される。

②感情発散

ちぎる、切る、丸める、叩きつける、塗り込めるなどの動作を通し、制作者の強い感情を直接に引き出したり、全身にうっ積されたものを解放していく効果がある。

③精神世界の深いところを投影する

言葉で表現できない、さまざまな内的感情が無意識に引き出され、目に見えない心に形を与える。

控えている声かけ

《参考・引用文献》 『アート×セラピー潮流』 関則雄+三脇康正+井上リサ+編集部 編『アートセラピー』 徳田良二 村井靖児 編『図解雑学 脳のしくみ』 岩田誠 監修『介護・福祉・医療に関わる人のための アートセラピー入門』 今井真理 著

上手だね

一見良いようにも思われますが、上手というのは評価の言葉になります。また、上手と伝えることで「下手」があることを示しています。アートは評価の対象ではありませんし、評価を渡す事は、対等な立場をとっていないことになります。LABO では子どもを一人の人として尊重し、作品の世界観ををまるごと受け止めるようにしています。



こうしてみたら？

大人が先走って進めてしまうことを控えています。どの子どもの中にも考える力があります。時間はかかっても見守ってみます。失敗も、試行錯誤も、回り道も、全て子どもの生きていく力に繋がります。まずは子どものやりたい方法を尊重します。「手伝って」と聞かれた時は「どうしたい?」と聞きながらサポートしています。



これなあに？

意味はないけれど、やってみたい。これをやっているとなんとなく気持ちが良い。身体が勝手に動いてしまう。そんなことってないでしょうか。そんな中に心の解放や、言葉に納まらない表現の種があります。「これなあに?」と聞かれると、子どもは一生懸命に意味づけを探してしまいます。意味を求めず、子どもの世界と一緒に感じるようにしています。そのためには、大人が心のままにアートをする楽しさを体験して知っているということも大事なのだと思います。



もったいないよ

大人から見て「もったいない」「むだづかい」と見えてしまう場面もあるかもしれません。でもそこには『思いついたこと、湧きあがったことを心のままにやりきってみる』という経験が隠されています。その経験や快感は人生において大切なことなのではないでしょうか。また乳幼児期は素材とたっぷり親しむことで脳が刺激されます。一律に「もったいない」とすぐに禁止するのではなく、何を大事に伝えたいのか一度立ち止まり、どのような言葉かけをするのが慎重に考えていくことが必要なのだと思います。そうは言っても、園では「もったいない」という価値観も大事にしたいと思い、『もったいないボックス』を用意しています。まだ使えるものはここにもらい再利用しています。

写真は、手を拭くペーパータオルがアートの素材となっていた時のものです。

意識している声かけや関わり

1. プロセスを楽しむ

綺麗な完成形を求めるのではなく、子どもが味わっているプロセスと一緒に楽しむようにしています。大人が飾りたいと思う瞬間と、子どもが思う完成のタイミングが違う時があるかもしれません。こちらの主観で止めてしまわぬよう、見守り、やりきれるようにしています。

ゴールではなく、過程の中に子どもの心の動きやドラマが詰まっていると考えています。



2. 1 (アイ) メッセージで伝える

2つ目は、感じたことを1 (アイ) メッセージで伝えることです。「私はこれを見て○○○と感じる」など。自分が感じたことを伝えることは、評価にはなりません。「対等な立場で、感じたことを伝えあうやりとりをしています。

ex.

「この色合いですごく好きだな。あったかい気持ちになるよ」
「○○ちゃんの夢中な姿って、私まで楽しくなっちゃうよ」
※作品ではなく姿に注目する時もあります



3. 子どもの適切な言葉を繰り返していく

話を聞いていないと繰り返しができないので、子どもの話しに集中することになります。そのことが子どもにとって「聞いてくれている」「理解してくれている」という喜びに繋がります。

また、子どもは自分の言葉をもう一度聞いたり、正しい言葉を聞くことで言葉を覚えていきます。

ex.

子 : 僕のシャツ恐竜だよ。
大人 : 本当だ。シャツに恐竜が描いてあるんだね。



4. 子どもの行動を言葉にする

大人が子どもの行動を言葉にすることで、子どもが主役になります。そして、こちらが子どもに関心を向けていることが伝わります。スポーツの実況中継者になったつもりで、言葉にしていきます。

ex.

どんどん赤いクレヨンの線が伸びていきます。
端と端がテープで繋がって大きくなったね。



5. 作品はそのひと自身

アートと心は繋がっていると解釈し、作品を扱う際はその子自身を扱うのと同じように大事にしています。

ex.

人に見せたり、触れたり、飾ったりする際には本人の許可をもらうなど。



6. あくまで活動は「提案」であること

選択の自由があること。ゴールが一つではないこと。
想定外を受け止めることを頭と心において関わっています。



子どもとアートセミナー 「表現の先に見えてくる世界」

子どもから大人まで、様々な方と造形を通して関わっていらっしゃる浅羽聡美さんをお招きし、アートとの関わりを学ぶ講座をLABOにて開催しました。園の職員や、子どもに関わる方を中心に学びを深める時間となりました。

浅羽 聡美（造形作家、atelier le matin 主宰）

誰もが自分を自由に表現でき、自他ともに受けとめあえるアートを通して、ワークショップ、人材育成、情報発信などを行う。これまで乳幼児から高齢者まで、教育、医療、福祉など多方面で活動している。近年は特に、幼児教育での造形表現の実践研究に注力している。東洋大学他非常勤講師。

著書
『子どものチカラを引き出す美術と大人の関わり合い』（2014年、atelier le matin刊）
『保育園の表現者たち～アートの流れる日々から』（2016年、atelier le matin刊）
『アートという文脈で保育を考えてみると』（2017年、atelier le matin刊）



Work

クレヨンと紙のワーク

「クレヨンと紙を目の前にした時、クレヨンは描くもの。紙は描かれるものと無意識に思っていないですか？普通の使い方や常識をちょっと横に置いて、自分の心の反応を信じて動いてみましょう。やったら怒られそうだなということをやってみるのも良いかもしれませんね」そんな提案のもとワークが開始しました。



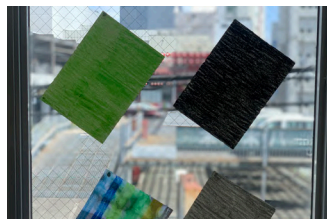
削る、伸ばす、ひっかく
もんじゃやきのヘラが大活躍



「大事に使いなさい」と教えられた価値観を超えて
みたいと、クレヨンをテープでまとめて、
ひたすら塗りたくって生まれたもの



ベビーオイル、シェービングクリーム、ボンドなど。
実験的にクレヨンと混ぜて楽しむ姿



「黒を使うのはダメという価値観を教えられた。
その黒も使って塗りたくってみた」

Exhibition

作品を展示

展示することで見える世界があるという言葉のもと、それぞれが自分の気持ちの良いと思う場所を探して展示していきました。



自分がしっくりくる場所を探す



ベビーオイルの透け感がな
んとも言えない味わいに



窓の側に吊るして展示
光を取り込んだ作品に



クレヨンと小麦粉・片栗粉・ベビーパウダーを混ぜ、
変化した様子を使用した画材やヘラと一緒に展示

講義の中で印象に残った言葉

否定からは何も始まらない。否定から関係をつくるのは難しい。
全てに理由がある。その背景に思いを寄せる。
「この子を変えてあげたい」というのは、実は今のその子の状態を否定している。
表現を受け止めることは、その子自身を丸ごと受け止めることになる。

子どもの表現に出会う時、無意識に評価したり答えを出したくなるのは、答えがないことに不安を感じるからである。大人は何を感じたか言葉にすることに慣れていない。
なぜなら、自分をさらけ出すことは不安を伴うことだからだ。
勇気をもって自分の感じたことを言葉にしてみよう。そうすることで、対等な関りがうまれ、響きあい、新しいことが見えてくる。
答えがないことに立ってみる。ひとりひとり違うことが OK という社会に繋がっていく。

目の前の子どもの姿に、心揺さぶられても良い。揺さぶられている大人の状態に子どもは勇気づけられる。お互いに必ず変化があるはずである。

大人が知っている「あたりまえ」を教えることで、子どもたちは新しいものに出会う感覚を失う。失うと取り戻すことは難しい。

受講者の感想

「否定からは何も始まらない」造形の際も、子どもと接する際も意識しようと思いました。日々の中で熱中して造形する時間をとれていなかったのが、子どもと一緒に熱中する時間をとろうと思いました。

N.Kさん（保護者）

固定概念にとらわれてしまっていた自分の頭、心をほぐすことができたので、日々の子どもたちとの時間にも生かしていけたらと思いました。

T.Hさん（外部参加者）

夢中になってやってみたくてやってみると、そこには「そうするつもりがなかったのに生まれたもの」に出会えた。今まで書くものが決まっていた中でやってきたということも受け止めつつ、今日やったことがこれがアートなんだってそう思えるような体験ができたことがこの時間を過ごした一番の意味になったと感じる。

れいじくん（職員）

研修を終えてのまとめ

コロナの規制がなくなり、久しぶりに外部の方も含めたセミナーとなりました。参加者の中には宮城県からお越しくださった方もいて、参加される方の学びたいという熱量を感じる時間にもなりました。
また、講師の浅羽先生からは、子ども達と造形やアート、表現するということに対して、そしてそこに向かい合う私たち大人の心の在り方に対しても、情熱のある数々の言葉をいただきました。
アートセミナーのテーマは「クレヨン」でしたが、浅羽先生の長年の経験から感じている『表現すること』に対する哲学を学ばせていただいた時間だったと感じています。
今回得たことをこれからの保育に生かしていくことはもちろんなのですが、大人のわたしたちも表現する時間を持つことの大切さを実感することができたので、次回開催する際には保護者の皆さまにも体感していただきたいと考えています。

園長 松下 かおる

KIDS SMILE LABO CLASS NEWS

0 year
こもれび



初めての友達

4月からスタートしたこもれびクラスも、早くも4ヶ月が経とうとしています。入園当初は一人遊びや大人との関わりが多かった子ども達ですが、最近は友達と関わる姿が多く見られるようになってきました。

はじめはそっと側に近づいてみたり、同じ玩具を手にとってみたりと「何だか気になる存在」だったのが、目と目が合うと笑い合うようになり、ハグをしたり、ハイハイで追いかけてきたり、時には喃語で会話をして盛り上がっていることも...！

キャッキッと声を上げて笑い合う子ども達を見ていると、「気になる存在」から今は確実に「友達」という存在に変化していつているのが分かります。

活動の中でも友達の真似をしてみよう、一人じゃ出来ないけど一緒にやってみよう、段差の登り降りやお水遊び、トンネルくぐりなど様々な事に共にチャレンジする姿が見られるようになり、まだまだ小さな0歳児でも友達との関係を深め、育み、育ちに繋がっているんだと感じました。

これから共に過ごす中でケンカをすることも増えてくると思いますが、初めて出来た友達を大切に、いつまでも仲良くしてくれたらと思います。 文 あやや

1 year
そよかぜ



遊び場だった場所から手洗い場へ

進級してお部屋に現れた水道の蛇口と石鹸、ペーパータオル。お水をジャーと流してみたり、何度も何度も石鹸ボトルをプッシュしてみたり、次から次へとでてくるペーパーを引っ張りだしたりできる、魅力的な場所。

子どもたちの中では一つの遊びとなる姿がありました。

中々止められない遊びで、ついつい大人は棚の中に片づけ、子どもから見えないようにしていました。できないようにするのは簡単なことですが、子どもたちにも少しずつ伝えていきたいという想いから、常に出すことにしました。

給食やおやつの前に手を洗うことを日々伝えていくことで、子どもたちの姿も少しずつ変化してきました。「もうすぐ給食だよ」「おやつができたよ」の保育者の言葉と共に、手洗い場に自分から進んでいく子どもたち。石鹸ボトルをプッシュし、手を洗う。最後には、ペーパーを引っ張りだし、ゴミ箱に捨てることができるようになってきました。綺麗になった両手を「ピッカリーン」と保育者にみせ、自身に満ち溢れた声が保育室に広がります。様々なことで大人が先に手を出してしまいがちですが、1歩立ち止まって子どもを信じ、見守ることが大切だと実感した出来事でした。 文 さっちゃん

2 years
のぼな



夏だ！感触遊びだ！

毎年、厳しい暑さにより室内で夏を過ごす LABO の子どもたち。

室内にいるこの時期は様々な感触遊びを行っています。先日は寒天遊びをしました。

ゼリーカップの中に入った色とりどりの寒天を前に、目を輝かせるのぼなさん。

「触ってもいい？」と興味を持って手を伸ばし、カップから取り出して触れてみると「つめた〜い！」「ツルツル滑るよ」と手の中の寒天の冷たさや心地よさに魅了されていました。

「〇〇ちゃんの好きなピンクあった！」と、自分の好きな色を夢中で集める子、スプーンで混ぜて形が変わっていく様子を観察する子、「ここに△△ちゃんの好きな紫あるよ！」と友だちが好きな色の寒天をスプーンですくってカップに入れてあげ、友だちとやりとりをする子と、それぞれの遊び方を見つけて遊びが盛り上がっていました。

ゾウのぬいぐるみが大好きな子は、「ゾウさん」と呼んでいる大事なぬいぐるみにご飯を作って「ゾウさん〜ごはん食べてね〜」と優しく声をかけている姿も見られ、思わず笑顔になりましたよ。

遊びも終わりに近づき、細かく液体状になった寒天を保育者が桶に入れていると、足を入れたがる子がいました。その様子を見て、「□□くんも欲しい〜！」と次々に声が掛かり、最後は1人1桶の『寒天足浴場』が出来、子どもたちの発想力に驚かされました。

寒天という1つの素材で1時間弱集中して遊び込んでいた子どもたち。

遊びに対する探究心や想像力は、私たち大人の予想を超えていくことに改めて気付かされました。

この夏の期間で、色々な感触に触れていく子どもたちの表情を見ることがとても楽しみです。

文 みーちゃん

始まりは「やってみたい！」から

DAY 1 ダンボール収集編

「ダンボールでお家を作りたい」という1人の子の思いからダンボール遊びを子どもたちとできたらいいと考えていました。そんな時、ダンボールやペットボトルの蓋など保育で使える資材をくださるということでミロードさんへ。搬入口にある倉庫で「これがいいと思う!」「小さいのも!」とダンボールを選びダンボール遊びに向けて期待を膨らませました。



本厚木ミロードの
うらがわに潜入!!

DAY 2 ダンボール遊び編



みて〜! ベッドができたよ!

DAY 3 絵の具遊び、お弁当編

作ったものに色を塗ってみよう! と絵の具遊びも行いました。ここにはこの色を塗りたいという思いがそれぞれから見られ、作った物が色鮮やかに彩られていきました。色が混ざる様子を観察し心動かしたり、手や足など身体に塗ってみて感触を楽しむなどダンボール遊びをきっかけに絵の具にたくさん触れた1日となりました。

そして作ったダンボールと一緒に食べた給食。「ここで食べていい?」と友達が作った家に入っ
て食べたり、「こっちも入っていいよ!」と自分の作った家に招待してあげる姿も。横並びになり、お弁当箱によそってもらった給食をみんなで食べる特別感を味わいました。

ダンボールで何が作れるだろう。テープで貼ると箱型に組み立てられ、中にも入れて切り開いて使うこともできる。色々な使い方があることを子どもたちと確認し作り始めました。ベッドは土台を作ってから寝るスペースを作りました。「寝てみる!」とドキドキしながら乗ってみるとグラグラするものの寝転がることができてとても嬉しそうな表情が見られました。長い筒を使って作った防犯カメラは侵入者がいないか見張っていて、太い筒をタイヤに見立てたベビーカーには「おさんぽだよ」と人形を乗せて歩きました。ダンボールを4つ連結させてできた相模線には車掌さんが乗り降りするドアもついており、細部にまでこだわって作る子どもたち。それぞれが作りたい物のイメージがありそこに向かって夢中になっている姿が印象的でした。



手が赤になったよ〜!



ダンボールハウスでお弁当
おいしいなっ!



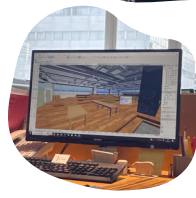
みんな真剣に聞いています...



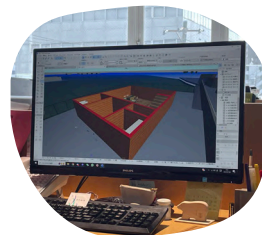
DAY 4 設計事務所編

ダンボールハウスを作りたいという気持ちから設計図を描いた子がいました。「ここにテーブルがあったらいいな」「ここにはベッドを置きたいな」そんな夢が詰まった設計図を立体的にするとうなるだろうと、ラボの上の階にある日比野設計の事務所へお仕事見学にいきました。初めはラボの立体図面を見て画面の中のラボを探検し、壁の色を変えたりできる様子を見せてもらいました。続いて描いた設計図が立体図面となり、パソコンの画面に登場! 設計図通りに作ってくれたところから、部屋の広さや窓の位置、電気の種類などを自由自在に変える様子を見せてもらいました。社員の方が「設計事務所は夢を膨らませる場所なんだよ」と子どもたちに伝えてくれましたが、それが体験できた時間になりました。

文 れいじくん



KIDS SMILE LABO の立体図面



hちゃんが描いた設計図

SUMMARY まとめ編

ダンボール遊びでは大人が活動を引っ張っていくのではなく、子どもたちの思いを形にしたり、叶えられるようにそとサポートしていききました。

そうすることで「これが作りたい」「この色で塗りたい」という子どもたちが持っているイメージ。「切りたいんだけど」「ここを押さえてほしい」と、それをどう実現していくか考える力が見えました。子どもたちの「やってみたい」が様々な形となり広がった1ヶ月。子どもたちの「やってみたい」を同じ気持ちでワクワクしながら日々過ごしていきたいです。

KIDS SMILE LABO KITCHEN

Vol.15

水分と塩分の両方が大切



日中には気温が40度近くになるほど今年の夏は暑い日が続いています。

夏バテによって食欲が落ちる方も多いと思いますが、子どもたちも同じです。

LABOの給食では食欲が落ちてくる夏の時期、普段は白米のみで提供している献立でもご飯の上にゆかりやごま塩をのせてみたり、塩分補給も兼ねてご飯が進む工夫を試しています。汗をかくことでカラダから水分やミネラルが出ていくので、夏の暑い時期は、よりこまめな水分と塩分の補給が大切になります。血液の中の水分とミネラルの量は常に上手に調整されていますが、水分だけをとることで血液の中でミネラルの割合が少なくなり(薄まってしまう)その結果、不調をきたして、いわゆる夏バテといわれる様々な症状が出てきてしまいます。そのため、水分だけでなく塩分の補給も必要になります。塩飴など塩分を含んだ飴やタブレット、梅干しのお菓子類などを上手に活用してみてくださいね。また、長時間外遊びをしていてたくさん汗をかいた時には水分と塩分と糖分が入ったスポーツドリンクもおすすです。糖分が加わることで水分と塩分の吸収がよくなったり、疲労回復にも繋がるためより効果的です。最近では飲みやすいように甘さ控えめタイプのスポーツドリンクも出ているのでお子様にもおすすめです。皆さんで暑い夏を元気に乗り切りましょう!

文 やっちゃん

KIDS SMILE LABO KITCHEN

保育園KIDS SMILE LABOで毎日子どもたちに提供している給食は厚木で育った旬の野菜、無添加調味料を使用して安心安全に、そして見て美しい食卓で美味しい給食を2343FOODLABO監修のもと、調理をしています。



2023年07月20日
受付番号: 10001011425

株式会社KIDSSMILELABO様

この度は、ユニセフ募金へのご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

この度のご寄付は、世界150以上の国と地域で子どもたちの命と健康な成長を守るために、保健、栄養、水と衛生、教育、子どもの保護などの分野で大切に活用させていただきます。

ご寄付確認日は、各カード会社からの当協会への入金日付となり2023年9月。また領収書ご送付は2023年10月上旬を予定します。

皆さまからのご寄付は大変大きな支えとなっております。改めて、深く御礼申し上げます。

子どもたちが帰って生まれた可能性を十分に伸ばし、子どもらしく過ごせる世界を実現できるよう、どうぞ、これからもユニセフを通じて世界の子どものために、あたためたい支援をお願いします。

公益財団法人 日本ユニセフ協会
クレジットカード番号

皆さまにご購入頂いた、

KIDS SMILE LABO T シャツの収益 10%

¥52,674

をユニセフへ寄付しました。

ご支援ありがとうございました。